

第2回大洲市水道事業経営審議会 議事概要

日時：令和8年1月23日（金）午後1時30分～

場所：大洲市役所 2階大ホール

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 建設部長あいさつ
- 4 議事
 - （1）大洲市水道事業経営戦略の見直しについて
 - （2）大洲市工業用水道事業経営戦略の見直しについて
 - （3）答申書（案）について
- 5 答申
- 6 閉会

【委員質問と事務局回答】

（大洲市水道事業経営戦略の見直しについて）

- ・委員質問1：管路更新事業を施行するにあたり、財源はどのように考えているか。
- ・事務局回答：管路更新事業の国補助の要件を満たすものについては、補助を活用する予定です。補助率は1/4（25％）になります。
- ・委員意見2：管路更新に対する事業費を増額したのにも関わらず、管路の更新率及び基幹管路の耐震適合率が、当初の目標数値より今回再設定した目標数値が下がった理由を教えてください。
- ・事務局回答：当初の目標数値の設定は、令和2年度末に行っており、近年の人件費と資材費が高騰しているため、管路の更新延長が減少し、管路の更新率及び基幹管路の耐震適合率が下がったわけであります。
- ・委員意見3：1月の半ばに、国土交通省の方で水道管の耐震性の基準の見直しをして、もう少し厳しくするという記事があったのですが、最新の国の方針と当計画との整合性は取れていますか。
- ・事務局回答：水道管の耐震性（強度）については、この計画に反映されていませんので、今後この基準を満たすように見直さなければなりません。

(大洲市工業用水道事業経営戦略の見直しについて)

- ・ 委員質問 1 : 料金回収率は、100%を下回ってしまうと、赤字になるという理解をしていますが、契約率に関しては、100%を下回っていても、収益的な影響はないという理解でよろしいのでしょうか。
- ・ 事務局回答 : 契約率が低い場合は、施設の能力に対して、供給・契約ができていないので、契約率を上げるか、施設の規模を下げるといったことを考える指標になります。収益とは別の話になります。
- ・ 委員質問 2 : 今後の大洲市の方針としては、施設の能力を下げるのではなく、新たな契約を取っていくという方向でよろしいでしょうか。
- ・ 事務局回答 : 施設能力にまだ余裕があるので、それを小さくするのではなく、そのままの施設能力で、新たな企業誘致に取り組んでいく経営戦略でご理解いただきたいと思います。
- ・ 委員質問 3 : もし、契約率が低いということになると、最初の時に余剰の計画を立て、無駄な設備に投資していたことになりませんか。
- ・ 事務局回答 : 昔は、5 業者の契約数があったのですが、段々と企業が撤退しまして今の状態になりました。当時は、効率の良い契約率でしたが、そこから企業数が減っていき、施設の規模はそのままにしてあります。そういったことで、今の施設能力になっていますので、今後も引き続き企業誘致を行っていきますが、最初から施設に対する余剰の計画であったことは 아닙니다。
- ・ 会長質問 1 : 契約率が下がってくると、赤字傾向が増えてくるという判断でよろしいですか。
- ・ 事務局回答 : 料金回収率については、100%が基準で、それ以上だと黒字で、それ以下なら水道料金以外で費用を賄っているということになります。契約率は、能力に余裕があるかないかの指標となります。